

伊是名村の海神祭と字仲田のシヌグ祭祀の現状

澤 岷 大 佑

The present conditions of Izena island Kaizin festival and the Nakada village Sinugu festival.

Daisuke TAKUSHI

伊是名島・伊平屋島総合調査報告書、沖縄県立博物館・美術館 別刷

2019年3月15日

Reprinted from Survey Reports on Natural History, History and Culture of
Izenajima and Iheyajima Islands, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

March, 2019

伊是名村の海神祭と字仲田のシヌグ祭祀の現状

澤 岬 大 佑*

The present conditions of Izena island Kaizin festival and the Nakada village Sinugu festival.

Daisuke TAKUSHI

はじめに

今回の調査では、伊是名村の海神祭と伊是名村仲田のシヌグに関しての調査・記録を行った。

海神祭は、沖縄本島北部・中部にかけて分布している祭祀で、海の彼方にあるニライ・カナイから来方神を招き、祝福を受けるといった内容となっている。祭祀の中では海漕ぎの所作やハーリー（競漕）など海の神への信仰儀礼だと捉えることができる。しかし、伊是名村の海神祭は、伊是名城跡の中で完結している点が特徴であるが、その内容の詳細に関しては記録があまり残されていない。

シヌグに関してだが、伊是名村では各字でシヌグが行われている。字仲田においては「はなぬ仲田仲田字史」（2004）に、平成15年度の調査記録が記されており、多少の違いはあるが「琉球国由来記」（1713）に記されている「シノゴ折目」の儀礼の流れに沿った祭祀が行われている事が分かる。

両祭祀は毎年旧暦7月の17日、18日の連日行うものとされており、今回の調査では、実際に行われる伊是名村の海神祭と字仲田のシヌグに参加し、現在の状況について記録を行った。今回の報告はその状況について記していく。

第1章 地域概要

1. 伊是名村の概要

伊是名村の人口は1433人、男760女673となっ

ている。伊平屋列島の南側に位置する島であり、伊是名、諸見、仲田、勢理客、内花の5つの字に分かれている。この島の概要については「伊是名村史」（1989年）で以下のように記載されている。

「伊是名村は沖縄本島北部の西方海上に点在する伊平屋列島の南側の島々、すなわち具志川島、伊是名島、屋那覇島、屋の下島、降神島の五島からなっている。その内、村民が住んでいるのは伊是名島だけで、他は無人島である。面積は五つの島を合わせても、16平方キロメートルに少し満たない。（中略）集落は五つあり、すべて海岸沿いに位置している。五つの集落、すなわち東の諸味と仲田、南の伊是名、西の勢理客、北の内花は、お互いに距離的に離れ、家屋が入り組んだりしていない。しかも、それぞれが総じて塊状の集落形態をなしているの、空間的・景観的識別は極めて容易である。（1989年 伊是名村史編集委員会）」（図1）。



図1 伊是名島（沖縄県地図情報システム）

*中城村護佐丸歴史資料図書館 〒901-2407 中城村字安里 215

2. 伊是名村字仲田の概要

今回、シヌグの調査を行った字仲田は、伊是名本島の東南部に位置しており、仲田港というフェリーが停泊する港があるため、旧盆時期や海神祭などの祭祀がある時は、里帰りや観光のために訪れる人々で賑わう様子が見られる。『伊是名村史』（1989年）では字仲田について以下のように記されている。「仲田は、行政上の標準的な名称はナカダで、伝統的な方言名ではナハダである。島の東に位置し、諸見、内花等とともに伊是名村東部と称される。島と今帰仁村の運天港を結ぶ定期船の港、村役場や学校、農協の製糖工場などが所在する。（1989年 伊是名村史編集委員会）」（図2）



図2 字仲田 作図：沖縄県地図情報システム

第2章 是名村海神祭と字仲田のシヌグについて

1. 文献からみる海神祭とシヌグ

沖縄本島の北部・中部にかけて分布している海神祭とシヌグは、旧暦の7月に行われる夏の年中行事であり、「琉球国由来記」（1713）においては、各地域の旧暦7月の祭祀として「海神折目」「シノゴ折目」「大折目」と記載されており、その年の区切りとなる行事とされている。「民俗芸能辞典」（1981）では、「シヌグは男性が主役となって行われるのに対し、ウンジャミは女性が主役」と紹介されている。

海神祭とシヌグが行われる流れについて「沖縄祭祀の研究」（1994）では各地の祭祀事例を比較し、海神祭とシヌグが一連の流れで行われていたり、隔年で行われていたり、「シニグ」という名称で一連の行事が行われていたり、地域によって様々な形

で行われているとしていた。このことから、海神祭とシヌグは一組もしくは対となる行事であることが分かる。

この2つの行事の名称について「沖縄の祭祀と信仰」（1990）では、地域によって呼び方が違う事が報告されており、海神祭はウンガミ又はウンジャミ、シヌグ祭はシヌグ又はシニグと呼ぶ事が多いが、今帰仁では「大折目」を表すウプユミ、奄美大島ではフーウンムという水祭が海神祭に当たると考えられている。

海神祭とシヌグの内容や形態についてだが、比嘉政夫氏の「沖縄の祭りと行事」（1993）の中でまとめられており、海神祭については本島北部地域の事例をもとに紹介していた。祭の前日は、祝女などの女性神役が集落の根屋や神アサギに籠りニライ・カナイの来訪神を迎える準備を行い、当日神アサギにて踊りや船漕ぎ、弓を射る所作などの神遊びにより神の祝福を受ける。最後には海辺で神をニライ・カナイへ送るというもので、「海の彼方にあるとされるニライ・カナイから来訪神を迎え作物の豊作を祈る儀式」としていた。

また、儀礼の形式についても記されており「儀礼の一つひとつについては、地域ごとに微妙なちがいがみられるが、この祭りの基本的な主題、すなわちニライ・カナイから幸福や豊穡（ユガフー）をもたらす神を迎え、つぎの豊かな作物の実りと与祝（前もって祝いを行えば、その祝いの内容が実現することを神も約束してくれるという考え方に基づいた行為）するものであることは共通している。」としている。

シヌグに関しては、国頭村安田のシヌグの事例で紹介されている。村の男性の集団が仮装して神になって執り行われる祭祀であり、「邪気払いを意味し、かつては村中の家々をまわって戸や壁を木の枝でたたき、悪しきものをはらい福のくことを祈ったという」とある。また、海神祭と同様に地域によってその内容や祭祀の形式が違っており、害虫払いのために行われたりすることもある。どちらの祭祀も地域によって、形式や呼び名が多種多様であるが、海神祭は豊作や繁栄を祝い、シヌグは厄を払うために行われる祭祀であることが分かる。

表1 海神祭・シヌグの概要

祭祀名称	海神祭：ウプユミ、ウンジャミ、フーウンメ、フーウンム等 シヌグ：シヌグ、シニグ等
時期・期間	祭祀時期：旧暦7月の亥の日、旧盆の前後 祭祀期間：海神祭とシヌグが連日で行われていたり、隔年で海神祭とシヌグが交互に行われていたり、「シニグ」という名称で一連の行事が行われていたり等、地域によって違う。
祭祀形態	海神祭：祝女などの女性神役を中心として行われる。祭の前日は、祝女などの女性神役が集落の根屋や神アサギに籠りニライ・カナイの来訪神を迎える準備を行う。当日神アサギにて踊りや船漕ぎ、弓を射る所作などの神遊びにより神の祝福を受ける。最後には海辺で神をニライ・カナイへ送る儀礼を行う。（競漕が行われる事もある） シヌグ：男性の集団（男子の場合もある）が仮装をすることで神となり、村や家々を廻り厄払いを行う。男性たちは掛け声を上げながら集落を廻り、手に持った棒や木の枝で家の床や壁をたたいて廻る。
意義・信仰	海神祭：神女による御願で、ニライ・カナイの来訪神から豊作や繁栄の祝福を受ける。 シヌグ：男たちが神に扮することで神格化され、村の厄払いを担う。集落を廻り、村の家々を清める。

2. 文献から見る伊是名村海神祭と字仲田のシヌグ

伊是名村の海神祭、シヌグについて「琉球国由来記」（1713）には、開催時期、供物、参加する神役などについて記録されている。「海神折目（七月島中ニテ日選仕り申、遊一日ノ事）。海ノ神御祭用に、神酒肴餅、相調伊是名城御イベ前二、ノロ・掟神申請、御祭仕リヲエカ人・サバクリ、御拝四ツ仕也。（1731：琉球国由来記）」

「伊是名村史」（1989）には、当時の海神祭の様子について記されており、海神祭とシヌグが連日行われることが分かる。祭場や供物、祭祀の様子について以下の様に記録されている。

「翌日のシヌグと連ねてシヌグ、ウンザミと言い、七月の連日夏折目である。

祭場での神事 大城ミヤ御イベ前（通称井ヌ前）、諸見、仲田の祭場

供物 諸見から 神酒、シツジ、カーサ餅7個 仲田から 神酒、カーサ餅7個

供物を供える前に「ハウン」といい、すすきの葉

先を結んだサンを3回振り、3回叩いて払いをする。ヌルがイベに拝礼する間、男神達が木の枝を集めイベ前の庭にシヌグ小屋という三角の小屋を3つ並べて作る。この小屋は翌日のシヌグの準備として作られ、昔は人が入れる程に作ったという。

小屋を囲み東の岩を腰当に座をつくり、一同御勤ミ（御拝）を行い、諸見から全員におかゆが出される。三つの小屋について由来や意義は知られていない。（1989：伊是名村史編集委員会）」

そして、「琉球祭祀空間の研究」（2005）では、より詳しい伊是名村海神祭の様子が記録されており、伊是名城跡内での儀礼がどのように行われているかが記されている。「屋那覇折目の翌日、7月17日は海神折目である。前日と同様の祭祀が潮が満ち始める頃、伊是名城で開始される。3箇所（神庭のうち、仲田と諸見の神庭（由来記の天城ミヤ）はアサギナーと呼ばれ、そこから祭祀は始められる。そのアサギナーには火神の殿（火神の祠）があり、祭庭の中央に木の枝で屋形が3つ作られる。神女はこの前に座して饗応（キョウオウ）を受ける。

仲田、諸見のアサギナーに続いて、勢理客ナーと、一度城を降りて城西斜面の伊是名ナーで、より簡略化された儀礼を繰り返して、海神祭は終了する。1987年には城の西の道が崩れているため、グスク西麓から祭場を遥拝した（遥拝の場を遥拝する二重の遥拝である）。（伊從勉：2005）。」

字仲田のシヌグに関しては、「はなぬ仲田 仲田字史」（2004）にて平成15年に行われた字仲田のシヌグの調査記録が残されており、参加者の状態や祭祀の詳細について記されていた。シヌグが行われる理由については「シヌグ（ウナザーレー）は、四ヵ字に共通する祭事で、男だけが参加し、古くは3歳、5歳、7歳から3回参加する習わしであった。『由来記』に記される重要な祭事で、悪い害虫やネズミ、あるいは家内の悪病を追い払うという祭事（2004：仲田字誌刊行会）」とされている。

この時の記録では、祝女などの神役は参加しておらず、仲田区長と字仲田の子供たちで祭祀が行われたようだ。子供たちは白のハチマキと衣装（体育着）で城跡を上り、頂上付近にある石川井泉（インチャージャー）と字仲田・諸見の拝所「大城ナー」を拝む。

この拝所の広場で三角の屋形を中心に3回周り、下山する。その後、子供たちによる厄払い廻りが行われるようで、村の拝所チンシガネ→字仲田の家々→聖地シヌグ毛→仲田神アサギ→拝所ウヌグムイの順で厄払いを行い、最後はウヌグムイで禊を行うことでシヌグは終了となるようだ。

伊是名村では、海神祭とシヌグは連日行うものとされている。海神祭では、各村の代表となる神役が、伊是名城の中に点在している各村の拝所アサギナーを拝んで廻るアサギ廻りの形式をとっており、海神祭は伊是名城の中で完結する。翌日にはシヌグが各村で執り行われ、連日の祭祀をもって夏の折り目としていることが分かる。先の節で紹介した北部の海神祭と比べると、神アサギの庭での儀礼や海辺での儀礼ではなく、伊是名城内に点在する村の神庭（アサギナー）で祭祀が完結する点が特徴的である。

3. 現在の海神祭と仲田区シヌグの状況

この節では、今回記録調査を行った伊是名海神祭と字仲田のシヌグの現在の状況について報告する。

当日の祭祀儀礼の流れを時系列順に並べ記載する。祭祀期間は2日間。旧暦の7月17日、18日にあたる日で行われるが、9月7日に海神祭、9月8日にシヌグ祭が執り行われた。

①海神祭

現在の海神祭は伊是名区、仲田区、勢理客区、諸見区の区長と各地域民数名が伊是名城に集まり、神役1名が祭祀を執り行った。次の表2は、海神祭の流れをまとめたものである。

表2 2017年 伊是名村 海神祭 祭祀行程

9:30～ 9:45	伊是名城跡玉御殿前にて集合し、人数確認を行う。集合確認後、城跡中腹の伊是名庭（イゼナナー）へ上り、祭祀の準備を始める。
10:00～	海神祭開始。神役である仲田ハル子さんが御願を行う。御願の後はお馳走とお神酒を食す。
11:00	伊是名城の麓にある遥拝所へ移動する。
11:10	伊是名城遥拝所にて御願を行い、御願の後はお馳走とお神酒を食す。
12:20	片付けを行い、祭祀終了となる。

9:30～9:45 伊是名城跡にて

伊是名城跡の玉御殿前にて伊是名、仲田、諸見、勢理客区の各区長と各字の住民数名が集合し、仲田区出身の仲田ハル子さんが神役の代役として参加する。参加者の確認を行い、伊是名城へと入り、西側の城跡中腹にある伊是名ナーにて、皆で祭祀の準備を始める。この時に用意されるウサンミ（ご馳走）は毎年当番制で今回は諸見区の婦人会がウサンミを作り持ってきていた。

10:00～ 伊是名ナーにて

伊是名ナーは広場になっており（写真1）、伊是名城跡の頂上方向が見える石段の前で儀礼の準備が始まる。石段前には、白紙の上に紙銭（ウチカビ）と線香を重ねて配置し、その手前にウサンミなどの供物が置かれる。（写真2）

区長が横に並んで座り、中心には伊是名の根神とされている銘苅家の銘苅盛重さんが座る。神役の仲田ハル子さんは列の右端に座っていた。その列の後ろに各村からの参加者が座り、海神祭の始まりとなる。



写真1 伊是名ナー



写真2 伊是名ナーへの供物

る。

最初に仲田ハル子さんから拝願を始め、その次に銘苅盛重さんが神への挨拶を行う。根神の御願中も仲田ハル子さんは神への言葉を唱えている状態である。

伊是名ナーへの挨拶と御願が終わると、各村の遙拝儀礼が行われる。各区長は拝所前に並べた白紙、紙銭（ウチカビ）、線香などの供物の上に酒をかけて、米を一つまみ撒く。その後、お酒を持ち、仲田、勢理客、諸見の各神庭への遙拝のために供えられた線香にお酒をかける。そして、銘苅家根神にお酒を渡し、区長に祝福の言葉が唱えられ、根神がお酒を一口飲む。その後、仲田ハル子さんにお酒を渡し、伊是名ナーに向けて御願を行う（写真3）。この一連の動作を、城跡内に点在する仲田、諸見、勢理客のアサギナーへの遙拝として3回行われる。最後に、根神からお酒が渡され、神女→根神→各区長→村の参加者の順で回し飲みを行う。この儀礼後に参加者全員で御馳走を食べる。



写真3 遙拝の儀礼の様子

ウサンミ（三枚肉、昆布、揚げ豆腐、揚げ魚、巻寿司、かまぼこ）とお神酒（お粥に少量の油味噌をいれたもの）が配られ、完食したものから餅が与えられる。皆が食べ終えてきたころから片付けを始めていき、伊是名ナーでの祭祀は終了となる。11時頃には伊是名ナーから降り、グスク公園を出てすぐの伊是名城西側の麓に集まり、祭祀の準備を行う。

11:10 伊是名城跡の麓にて

本来は、伊是名城の頂上付近にある伊是名ガー（井泉）まで登って御願を行うが、傾斜が厳しく、険しい道のりのため、現在は遙拝所を通して神への

御願を行う。グスク麓のこの場所そのものが遙拝所とされており、御神体や香炉はなく、伊是名ガーのあるグスク頂上付近に向けて御願を行う。儀礼は伊是名ナーと同様の内容となっており、仲田ハル子さんの神への挨拶と御願から始まり、銘苅家の根神への挨拶を行っていく。遙拝所にて並べる供物は9つあり（写真4）、それぞれにお酒をかけ米を撒いて御願は終了となる。



写真4 遙拝所への供物

11:30～12:00

御願が終わり、伊是名ナーと同様にウサンミを広げ、参加者に配る。祭祀としてはこの遙拝所での御願で終わりのため、ご馳走を口にせず持って帰る支度をしていた。片付けが終わると解散となり、海神祭は午前12:00頃に終了となった。

今回の海神祭では、伊是名城跡の伊是名ナーと城跡麓にある伊是名ガーへの遙拝所の2か所で拝願が行われた。祭祀を執り行う神役に関しても伊是名の根神とされる銘苅盛重さんと仲田祝女代理の仲田ハル子さんの2人のみの参加となっていた。

文献の記録では、城内にある諸見、仲田、伊是名、勢理客のアサギナーで、各村の神役による拝願が行われるとしていたが、現状は簡略化されている事が分かる。海神祭そのものは伊是名城跡内で完結させる事は変わっていない。また、文献にあった神庭で作成する三つのシヌグ小屋（木の枝で作った屋形）は作られず、そのまま拝みを行っていた。

②仲田のシヌグ

海神祭とは違い、シヌグに関しては各字で執り行われる。仲田区では、シヌグの前に仲田ハル子さんによる仲田神アサギでの御願が行われるが、シヌグ

祭自体は、仲田区長と仲田区の子供たちが中心となって行われている。伊是名城跡から始まり、拝所チンシムイ、仲田区の各家や施設、仲田神アサギの順で祭祀が行われていく。

表3 2017年度 シヌグ 祭祀行程

9:00	伊是名城跡にて伊是名ガーの清掃を行う。
10:00	仲田アサギに仲田区長と職員1人、仲田ハル子さんが集まる。御願の準備を始める。
10:15	仲田火之神への御願が行われる。
12:30	仲田公民館にシヌグの神役をつとめる子供たち10名が集合する。
13:00	シヌグ開始。伊是名城跡中腹にある伊是名ガーにて子供たちによると儀礼が行われる。終わり次第、城跡から降りて次の拝所で向かう。
13:30	拝所チンシムイで厄払いを行う。区長と子供たちが拝所に御願し、その後厄払いのため拝所の周りを周回する。終わり次第仲田区へ移動する。
13:40	仲田区の各家への巡回開始。130戸あまりを2グループに別れて廻る。
16:00	仲田アサギ前に子供たちが集合。アサギでも同様の唄を捧げ、アサギの周りを3回廻る。その後、アサギの中で供物の奉納を行い、御願を行う。
16:30	アサギ内での御願を終え、アサギの中でウサンミを食べる。全員が食べたら片づけを行い、祭祀終了となる。

仲田区のシヌグは村の厄払いのために行われ、村の子供たちが城跡にある井戸「伊是名ガー」で儀礼を行う事で厄払いの神となり、村に降りて厄払いが行われる。表2は、当日の流れをまとめたものとなっている。

9:00～9:45 伊是名城にて

伊是名城前の麓にて、各村の区長4人と村人3人、教育委員会職員1人が集合し、伊是名城頂上付近にある伊是名ガーへ向かう。

伊是名ガーはシヌグ祭の始まり地点のため、祭祀が始まる前に井戸の掃除を行う。掃除の際は伊是名区長が、井戸の隣にある拝所に向かって挨拶と掃除を行う事を唄え、掃除開始となる。掃除は井戸の中にある枯葉の撤去、井戸周辺の雑草や伸びすぎた木枝の伐採を行い終了となった。掃除の後は、各区長は自分の村へ帰りシヌグの準備を行う。仲田区長はシヌグ前に行く仲田神アサギでの祝女御願の準備の

ためそのまま神アサギへ向かった。

10:00 仲田神アサギ

仲田区長：前川国清さんと仲田区職員の1名と仲田ハル子さんの計3名が仲田アシャギにて集合し、区長が仲田神アサギ横の祝女殿内（写真5）の扉をあけ、火之神前にて御願の準備を行う。並べる供物は、お酒、米、果物（リンゴ、みかん、バナナ）、ご馳走（パパイヤ炒め）となり、果物とご馳走をお盆に乗せて用意する。準備が終わると仲田ハル子さんによる神への挨拶と御願が始まる。その御願では、自身が歴代仲田祝女の代わりに御願をしている事。村の豊穰・子孫繁栄、今年も海神祭・シヌグが無事におこなわれる事。村のことに関する近況報告などである（写真6）。これらを20分間唄え続け神アシャギ及び殿内での御願は終了となる。



写真5 仲田祝女殿内

本来は、仲田区にいたとされる祝女、オキテアム、三神が集まり、殿内での御願、神アシャギの中に入っの儀礼を行ようだが、現在は行っていない。殿内での御願が終わると、線香にお酒をかけて、その後上から米を撒いて終了となる。



写真6 殿内での御願の様子

12:30 伊是名城跡

仲田公民館にてシヌグの主演となる仲田区の子ども達が集合し始める。衣裳は白い体育着、白い鉢巻で手には木の棒（120cmほど）を持っていた。木の棒と鉢巻は公民館から支給される。今回の仲田シヌグ祭では10名の子ども達が集まり、全員小学生であった。

区長が全員の人数を確かめ終えたあとは、伊是名城まで軽トラックで移動した。

13:00 伊是名ガー

伊是名城跡を上り、伊是名ガーへ向かう。最初に仲田区の子供たちが区長と共に伊是名城跡を上がり、伊是名ガーへ到着後、仲田区長が伊是名ガー手前の拝所に線香を焚き、酒と供物を置く。準備でき次第、子供たちと一緒に拝所への御願を行い、お酒を区長と仲田区職員で廻し飲みし、子供たちには酒を舐めさせ、御願は終了となる。（写真7）

御願後、区長の合図と共に子供たちが整列し、伊是名ガーの広場にて儀礼を行う。広場の中心には、木の枝で作った屋形が三つ並べており、その周りを



写真7 伊是名ガーでの御願



写真8 仲田シヌグの始まりの儀礼

子供たちが反時計回りで円状に3回周回する。この儀礼をもって子供たちがシヌグで厄払いを担う神となるようだ。この儀礼は「ウンナーザーレ ホイホイホイ イユネーノホイホイホイ ウンティクマンティク トウイトウイトウイ」と、子供たち全員が唱和しながら行われ、手に持った棒を地面に打ち付けながら周回する（写真8）。周回が行われた後は、拝所に供えられた供物である果物が子供たちに配られ、食べながら城跡を下っていく。

13:30 拝所チンシムイ

伊是名城跡から移動し、仲田区方面へ向かう道中に「チンシムイ」と呼ばれる伊是名村の拝所がある。香炉は無いが、石ブロックが置かれている拝所前にて、仲田区長が線香と供物、お酒を配置し、伊是名ガーと同様に区長と子供たちによる御願が行われる（写真9）その後も伊是名画ガーと同様に掛け声の唱和を行いながら、チンシムイの周りを3回反時計回りで周回する。



写真9 チンシムイでの御願

13:40 仲田区での厄払い

仲田区に到着後、子供たちは2組5人ずつに分かれて各家々を廻った。このシヌグに備え、仲田区の住人は家の玄関と台所の勝手口もしくは居間の掃き出し窓を開けている。家には土足で上がり、床を棒で打ち付けながら家内を周回する（写真10）。



写真 10 屋内で厄払いを行っている様子

基本は玄関又は居間から入り、台所へ行き勝手口（無い場合は玄関）から外へ出ていく。この際も掛け声を唱和し、反時計周りで家の中を周回する。玄関や勝手口に鍵がかけられ入れない場合は、その家の庭もしくは家の周囲を反時計周りに周る（写真11）。アパートなどの集合住宅でも部屋ひとつひとつを訪れて、厄払いを行っていた。仲田区では、この儀礼中に子供たちの唱和に合わせて音頭や手拍子を行い、住民の方々が子供たちを家の中へ迎える姿も見られた。130戸ほど廻り、仲田区での厄払いが終わった後は、仲田神アサギへと向かう。



写真 11 家の周りを周回している様子

16：00 仲田神アサギにて

仲田神アサギの前に区長と子供たちが集合する。到着次第、神アサギでの厄払いが行われる。アサギの周りを反時計周りに3回周回（写真12）し、その後神アサギの中で今年のシヌグを終えるための御願が行われる。



写真 12 仲田神アサギでの厄払い

神アサギの中には拝所があり、区長がそこに線香、果物、お酒を供えた後に子供たちと共に御願を行う。



写真 13 アサギ内の拝所

線香には火をつけず、御願の最後にお酒をかける（写真13）（写真14）。この御願が終わると、全員にお神酒（味噌の入ったお粥）が配られ、子供たち全員がこのお神酒を食べきるとシヌグが終了となる。



写真 14 御願の様子

今回のシヌグは、仲田区長と子供たちが中心となって執り行われた。始まりは伊是名城跡にある村の

井戸「伊是名ガー」から始まり、城跡を下って拝所チンシムイ、仲田区への厄払いへと続き、最後は仲田神アサギで儀礼が行われた。先の章で記したシヌグの形態である「村の御嶽や神聖な場で男性たちが神に扮して村に下りて家々を廻って厄を払い、祝福する」という形態をとる事は類似している事が分かる。城跡に上り、頂上近くの広場でシヌグの儀礼を行って村へ下り、村の厄払いを行う、この祭祀の流れは文献と同様だった。しかし、仲田字史に記載されていた拝所チンシムイ（チンシガネクのこと）や神アサギには厄払いを行ったが、伊是名城跡の大城ナー、シヌグ毛、ウヌグムイには行かなかった。また、最後の禊は行わず、そのまま仲田神アサギでお神酒を食べて終了となっていた。

4. 仲田区の祝女組織の現状

今回の聞き取り調査の中で、現在、字仲田の神役の代わりに祭祀を執り行っている仲田ハル子さん（73歳）から、字仲田の年中祭祀の現状についてお聞きすることができた。

字仲田の祭祀については仲田家の祝女祭祀を取り仕切ることとなっているが、村の年中祭祀は現在、仲田家である仲田ハル子さんが中心となって執り行われている。仲田ハル子さんは子どもの頃から父の祭祀のお手伝いとして参加していた。23歳の頃に、兵庫県へ祝女としての修行のため一度伊是名島を出て、現在は沖縄本島に在住している。本格的に村の祭祀に関わるのは2011年頃からのようだ。

伊平屋列島村誌(1974)では仲田ハル子さんの父：仲田セイジロウさんは「メーイ神」という男性神役として記載されている。また同書には、祝女殿内に仕え、村の祭祀をまとめる三属神の一人として字仲田の根神・我喜屋カミさん（屋号：前ヌ大屋）の記載があった。しかし、その後の祝女の継承に関しては記録もなく、現在は祝女が祭祀に参加できていない状態のようだ。村の男性神役を担っていた仲田ソウジロウさんの娘である仲田ハル子さんが祝女の代理として、祭祀の際に伊是名島へ渡り、各拝所への拝みを行っている。

5. 伊是名島における祭祀の変化について

伊是名島全体における祭祀の変化については、伊

平屋列島文化誌（1974）によると「伊是名島は第二尚氏の始祖尚円王の御誕生の地で王家に連なる遺跡伝説が多く伊平屋アムガナシを始め、諸々の神職があって現在でも古風を偲ぶ祭典が行われているが、長い年月伝って来た、其の祭典は時代と共に簡略化され過去の文献や実施されていた昔の状態は殊に大東亜戦争後は一変してきた。(1974:仲田清英)」と記されている。1941年の大東亜戦争(太平洋戦争)後の影響を受け、島全体で行われている祭祀の簡略化が進んでいったことが分かる。

昭和60年ごろに伊是名村の祭祀調査が行われたようだが、伊是名村教育委員会教育長の名嘉正氏にその事を伺うと、その頃の仲田村では、神役や祝女が主体となる祭祀においては祝女の参加が減少し、祭祀そのものの簡略化や形態の変化が起きていたようである。元々、仲田区には神行事を担当している祝女がいたが、戦後間もなくに本島への移住や高齢化が進むことにより祝女がいなくなってしまったと言われている。そのため、当時行われていた年中祭祀に関して、他の村と比べると、前よりも簡略化された祭祀や行われなくなった祭祀があったようである。

おわりに

今回の調査で、伊是名村の海神祭では、現在では簡略化された形態で儀礼が行われていることが分かった。文献の記録では第一次世界大戦以降から祭祀の簡略化が進んでいるとされており、今回の海神祭では、各字のアサギナーへの遙拝は一か所で止め、祝女や神役の数の減少もあるが、海神祭そのものは簡略化された形でも行われる事が分かった。また、聞き取り調査の中では、海神祭は祝女を中心として行われる祭祀である事、村全体の重要な祭祀とされている事は強く感じられる。

海神祭変遷の全容を捉えるには、今回は詳細な調査を行うことができなかった伊是名、諸見、勢理客など他の集落の祝女組織の形態や歴史について調べ、各字の祝女や神役の変遷と海神祭の変遷を照合していく事が必要だと思われる。

仲田のシヌグでは、嬉々としてシヌグに参加する子供たちの姿が印象的であった。祭祀そのものの流

れは文献通りの工程で行われるが、廻る拝所が減っており、禊も行われず、海神祭と同様に儀礼の内容に変化があった。子供たちだけで行われる仲田シヌグだが、「琉球国由来記」には「アマイ神」と呼ばれる神役が祭祀に参加する事が記載されており、「伊平屋列島文化誌」（1974）においても同様の名の神役がある。字仲田にもアマイ神を継承する家系があると考えられる。今回の調査では、アマイ神について詳細な調査を行うことができなかったが、今後の調査の中で、シヌグにおける神役や祝女と祭祀の関係性などについて調べる必要がある。また、字ごとにシヌグが行われるため、各字のシヌグの形態の比較や変遷を調べることで、伊是名村におけるシヌグの在り方が見えてくるだろう。今回は現在の状況報告となったが、今後も注目し、祝女組織や祭祀の変遷についても詳細な調査をしていきたい。

参考文献

- ①伊是名村史編集委員会 「伊是名村史」 1989年
- ②仲田区字誌刊行会 「はなぬ仲里 仲田字誌」 2004年
- ③伊従勉 「琉球祭祀空間の研究」 2005年
- ④外間守善／波照間永吉 「定本 琉球国由来記」 1977年
- ⑤東京堂出版 「民俗芸能辞典」 1981年
- ⑥仲田清栄 「伊平屋列島文化誌」 1974年
- ⑦比嘉政夫 「沖縄の祭りと行事」 1993年
- ⑧高阪薫／秋山紀子／武藤美也子／神野富一 「沖縄祭祀の研究」 1994年